

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

明治凡聞錄
七

經濟學部
研究室

80

266

70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80

經濟學部
研究會
80
266



38448

未申年四月洋分

任右大臣

任議院長

文部大助教 池田
式部助 五止
兵庫縣檢校 中山
司法勢大輔 依木
陸軍少將 山田
文部大丞 田中
司法少判事 中世
宮内大丞 村田
租稅檢校 岩山
租稅檢校 富田

岩倉外務卿
伊藤大輔
東久世
大久保大藏
木下大藏
外務大丞 安房
外務大記 龍村
神戶川縣大丞 内海
侍從長 東久世
戶籍頭 田中
司法大判事 黒田
司法大判事 長野
學部大教授 徳田
檢査大尉 松山
文部中教授

文部中助教

近展

正七位 中島

土木助

小野

書記官

今村
内村

造船

林
肥田

鐵道中層

川路
乳生

租稅權頭

吉田

右 仍事洋行也

○ 旧藩知事松平後主位直己家祿被方、義忠九月迄是迄
通上被立、湯共来十月、右家祿被方如仍事洋行、
至急、以爲當此被中、此後、
十月三日、
辛未九月九日、

廣瀬 縣下

書面送來之通渡方可取中事

大藏大久保利通下

○ 前橋元藩知事善授寺之曹洞宗教顯寺外三寺、後希廣
士、以稱地、刻成、居住、為、被、今、被、外、立、所、住、寺、以、稱
、身、在、住、居、地、又、租、稅、者、未、納、是、迄、之、場、下、各、事、不、共、
、裁、是、為、外、地、上、可、未、後、寺、院、
辛未八月九日、

前橋 縣

大藏省中

○ 市札 書面之類、
取中事

鶴舞縣

○ 昨午、羊藩改革士族卒二事、
先、功、方、以、數、代、士、族、以、稱、取、極、未、事、卒、列、編、入、仕、金、
、若、民、以、產、裁、此、後、
、

辛未八月十六

大藏省中

鶴舞糝

書向士族編入者之者、
得志不苦、
伴 返云、名希、
三處出本

士族養子ニ就テ家督トシ侯ニ若ク此持テ不肖養母并親類
共教誨ヲ不利其侯若シ多ク若家名断絶ニ從ヒ難キ輩
你波波トクシ生情莫不得止兼唐別人養子類トク家督
トシテ多ク若若此辰トクトク

辛未八月九日

史官少中

鶴
舞
縣

沙舟記

户主雖係家小石歲上除隱居安設別人子者子
家督未及上義石共上平

來十一月十七日大掌令李十四豐明節令李忠武公忠國一收諸神社於相應之神事執以衆一同可乎說事
但為日刑四刻云云可令禁也

未十月

大政官

來ル十七日 大嘗祭は初ル夕十五日晚ト十八日朝ニ至リ
少神事トテ隆重輕便者 金朝ニ倣フ事
但大元別ニモ便ナキ故ニ鐘一切停止ス事

辛未十一月

太改官

別紙之通神祇者片達坊之ヲ統テ者禮也 少部市奉戴ニ為日
一 同休業產出神ヲ奉拜シ右ニ奉祝 和樂ニ奉振奉
右之通山城巾ノ喪儀古達スリ也

辛未十一月

京都府

大嘗會、乃光般大改竄、御布告有之候處、尤之通重キ
御趣意、并此旨地方末々、至追無淺深、切可申諭事

辛未十一月

神祇省

告諭

大嘗會ノ儀ハ 天孫瓊々杵尊降臨ノ時 天祖天照大
 御神詔ニテ豊葦原瑞穂國ハ吾所子ノ所知國ト封シ玉ヒ乃
 齋庭ノ徳ヲ授ケ玉ヒヨリ 天孫日向高千穂宮ニ天降ミ
 く始々其箱篋ヲ播テ新穀ヲ聞食ス是大嘗新嘗ノ起原
 也ヨリ 卽即位継体ノ初ニ於テ大嘗ノ大義ヲ行ヒ玉フハ 新帝雲
 新國ヲ所知食シ 天祖封ヲ受玉フ所以テ大禮ニテ國家
 弟一ノ重事ナリ其義本月卯日 宸儀忝ク 天祖天神地
 祇ヲ饗食記ミク辰日 高御座ニ御テ新穀ノ饗饌ヲ聞
 食シ卽酒饌ヲ百官群臣ニ賜フ是ヲ宣明節會ト云フ大穀ハ
 天祖授興シ玉フ所生靈億兆ノ命ヲ保ツ所ノモノニテ
 天皇斯生民ヲ鞠育シ以テ其恩賴ヲ報シ 天職ヲ奉ヒ玉フ斯ノ
 如シ然則此大嘗會ニ於テ天下萬民謹テ 御趣意ヲ奉載
 シ當日人民休業各其地方産出神ヲ奉拜シ 天祖ノ徳沢ヲ
 仰キ 隆盛ノ洪福ヲ祝セスハアルハカサル也

司法省中判事解於等級ノ通テ改定事ニ廢事

大判事	二等	權大判事	三等
中判事	四等	權中判事	五等
少判事	六等	權少判事	七等
大解於	八等	權大解於	九等
中解於	十等	權中解於	十一等
女解於	十二等	權女解於	十三等

辛未十月 太政官

○善化宗ニ及自今以廢ノ際任勞之事民籍ニ編入シ諸
 之室ニ住モ地方ニ適宜ニ以テ授産方可取斗事
 但廢宗之寺藉跡歸俗ニ奉人未至ノ所未定也
 地代ヲ以拂下テ年貢諸役ニ付テ初事
 辛未十月 太政官

今般上野國小情伊勢崎前爲言傍岩鼻沼田七日市

安中八縣之廢更之群馬縣之沙至之事
但言濟之縣廢之沙至之事

辛未十月

太政官

今收播之玉并丹波國內之諸縣之廢更之沙至之事

播磨國一系

丹波國但馬玉一系

姫路縣
豐岡縣

丹波國

水上市郡

天田郡

今般三陸之羽般城岩代諸玉之諸縣之廢更之沙至之事

磐城國

平

宇多郡內

行方郡

標葉郡

猶葉郡

田村郡

磐城國

二本松縣

白河郡

安達郡

安積郡

岩瀨郡

伊達郡

磐城國

巨理郡

伊具郡

仙臺

縣

陸前國

枕生郡

遠田郡

志田郡

賀美郡

黒川郡

宮城郡

名取郡

柴田郡

岩代國

耶麻郡

大沼郡

若松

縣

陸前國

一

關縣

本吉郡

登米郡

栗原郡

玉造郡

氣仙郡

陸中國

江刺郡

磐井郡

陸中國

和賀郡

律貢郡

盛岡

縣

岩手郡

九戸郡

紫波郡

秋田

縣

陸中國

雄勝郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

青森

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

陸中國

秋田郡

仙北郡

由利郡

青森

新貨幣鑄造之製造幣寮是光土地金銀係為換座

後永養老技師為辛未十月限出廢更未事歲
右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

右之通改之除亦公得小城西中之無淺達之也
辛未十月
京都府
令十兩百歲
太政官

三井俱に於て其取鑄造淋に便弊も同而に於て彼方より成り
此方より成るを得る規則を以て可なり
右之通出減玉中に要減も達するもの也

辛未十一月

京都府

○
今般大坂鐵道敷設とて鐵道建築費 伊豆山分會者西平
大坂と建営は貴州と奉助、又三井部者三井三井部
三井部部者三井元之島三井部者三井部者三井部者
善助下村氏を而且外先入社中松人々者合鉄道會
社に結ひ別冊之通規則を主則太改官より允許を
由て様々形を賣渡す、除き者右社に可買水を
右株に形を賣渡す、除き者右社に可買水を
不拘賣買勝手にて之を除却無念融通を以て
右之通出減玉中に要減も達するもの也

辛未十一月

京都府

鐵道會社規則

運輸之利便を求む世に益あり人々皆生る一大義なり
際ト流通トラ擴充スルノ振軸タルノ僅僕ノ輩ト雖に能
其理ヲ通曉ス今や鐵道汽車之舉初テ我邦に行人東京
ヨリ横濱兵庫ヨリ大坂迄と事始めニ線ヲ敷き其功漸ク成
業ノ夥ニ近ニ然るに僅クこれニ線ヲ敷き我邦に鐵道ヲ開
ケリト云ベカラス源ヲ衆カヲ協合シ金額ヲ募集シ以テ此鐵
道ヲ全州に敷設セシ運輸便ヲ求ム實際ニ施シ其
速ナシテテ新望スベシ其鐵道ノ長運ナルト入費ノ不貲ナル
依リテ人庶皆之ヲ論議スルニシテ是ヲ實地ニ謀ルに徒ニ
此等玉積ニテ泰山ヲ高クスベシ勾水ヲ停テ以テ江河ヲ深クスベシ
今迄ノ大事業ト雖其具緒ヲ開クに於テ豈其方法ナシト云キ
理アリヤ故ニ今新ニ大坂ヨリ城前敷設迄ノ鐵道ヲ會社
ヲ創ニス其方法規則如左

第一條

京都大坂迄ノ鐵道通程凡ソ十里と見積リ算數ノ
停而ヨリ大坂ノ停而迄ト取極メ其建築費入費一里ニ對

九七五圓と見積り総テ今高七千五圓ヲ要用トス

第二條

此七千五圓今更ニ對鐵道會社ヲ創立シ以會社政府ノ
允准ヲ得テ社ヲ結ビ鐵道株手形ヲ出シ以テ七千五圓ノ金ヲ
募集ルベシ

第三條

此鐵道會社ヲ其建築ノ費ヲ募ルトモ其建築方ヨリ
咸切ノ上ノ取扱方モ皆政府ノ手ニテ之ヲ受持テ他ノ鐵道ト異
ナル事ナシ故ニ政府ノ鐵道仲立者ニ加入シ其利率ト其金令トヲ
得ル者トシトム得ベシ

第四條

此鐵道會社ヲ結フニ凡そ人ヲ以テ登記人トシテ凡そ元アル者ヲ
會社ノ仲間ニ入レテ其株數元令ノ半高ニ至ルヲ待テ凡そ十
人ヲ限トスベシ

第五條

登記人ノ進ミ應シ仲立者ニ加入者ハ則鐵道會社ノ人也此内ト
一人ヲ撰ミテ總領取トナス又一人ヲ撰シテ取締トナス此二人ハ下條
ニ表ラ以テ場タル通ノ株主ヲ所持スル人ナルベシ又配入員定方ホ
ノ者ハ其職ニ適フ者ヲ雇ハシ總領取是取締之義圖ヲ奉ス
ハキ者ナシ株主ニ非ス可シ

第六條

鐵道株ハ百圓ヲ以テ一株トス故ニ七千五圓ニテ七千株トシ其人五
十圓ノ手券アルハ一株ヲ折セシテ世ノ便利ニ從フナリ株主形會
社ニ彫刻シ政府ノ允准ヲ得テ之ヲ發行スベシ其入費ハ政府
更テ之ヲ償フベシ株主形ノ利息ハ一年一割ト定メ其利分春秋
二度ニ割合セ株主形ニ對タル利ヲ持テ若ハ渡スベシ
尚數々條アリ共畧之

○ 盲人之官職自今止廢ル事

但從前檢校句當座頭以下配當金取集ノハ勿論各
持傷ト區分計派接ノ者他ノ營業ヲ妨タル者今
後急度其座頭等系是迄往來居留ミ盲人派

辛未十一月

太政官

先取社寺領上地也 作出稅 之者祿制也之ノ主成り上
 粟米ヲ以テ社ノ之凡當末年分ハ少額合茂力之出達者取
 調方々也 限收納物成之年平均之量を通リ以テ成法
 之達者之限此方々也 得年

件限之日限之六出告在之上更之可也達字本
辛未十一月

京都府

今取西海道以来之諸縣、廢之、更に在之縣、以之爲事。
但廢縣、以爲新縣之地、而爲未事、物成、以材爲新、至之縣、
工、以爲事。

今收廢縣之官更進沙汰近新立縣令花奉事之名
采之又後希之歷檢事勢可取極事

豐前國一

小倉縣

豐後國一

大分縣

筑茶園司

三
游
錄

肥田國

伊多里糝

北
前
玉

後方郡

許鴻郡

山城郡
三根郡

神壽郡

養父郡

基律郡

肥前國

長茅嶺

松浦郡之内

波柁郡

高壁郡

對馬國一

肥後國

八代縣

天草郡 茅北郡 八代郡

下益

宇土郡

壹岐國一四

熊本系

肥後國

飯田郡 上益城郡 張摩郡 合志郡 宋郡 兼徳郡
阿蘇郡 玉名郡 山麻郡

日向國四郡之内分 美々津縣

大隅國七郡内分 都城縣

日向國三郡内分 薩摩國一郡 鹿兒島縣

大隅國三郡 山口縣

周防長門兩郡内分 靜岡縣

駿河國一郡 函山縣

備前國一郡 尾張國一郡 名古屋縣

右之通諸縣沙至り身後希多發縣之縣より地和物成り村等
も末平より受取事

但之及別一附限之等取調大藏有るべき事
未十一月 大改官

療病院創業と義別紙之通布告及へり然れ方今病毒の盛ん
行き人を此之害を成るゝ廠毒其最たるものなり其原由多し遊
りや流傳多し事先敢て管轄縣に實地偵察建白書中載た
る如く今各地に療病院を開業せし且其治療を受るもの廠毒
中の八九分あり又此世上毒を流し安んずる事を以て世に
あつた人を救ひ世に益する志あり天地冥理に石計事身先
達し遊女藝者茶屋等會社と結び宿民授産する貴利あり
へき方を以て其社法より遊女外は娼婦煙細類素貴廠毒たり
酒や性慾を指し或は奸民是れ第一誘人を報惑しこの態を
是れとんと欲するものありて終に三社不和となり或は景況より
吟嘆の上より者も外はとて身外に平竟性慾を不閑より生ある
外は身振別害失ふ事あり何れも沙汰に不及今敢て三社及び授

座下費用宜加沙都之廢止改之療病院費用と之を併法
主として除却其世に病毒を流傳せざるを要して却て病人病
難を救ひ其に健全大衆を促るゝの肝要たる事
右之振諸道に遊女藝者多き座商業之者共々意圖を達せ

辛未十二月

京都府

療病院助費遊女藝者宜加鈔割
主として夜之代り其分一之割を以て人別出給之事

但此之方無多少に拘らず代滿一昼夜之代分一日に積り三月

事に納本

遊女藝者人別健全保護之鑑札を附一週毎に醫師検査之病
氣方之者半年愈近遊札引移す事其に病氣留滞遊札引上中
未宜加沙多し不及事

健全保護之事遊而不持せざる者遊女藝者之御決り不承事
從來店に喫遊女藝者を控主者切致限り方如右に強ひ廢
止向後免許之遊女遊女藝者之控主者免自今御沙及者
ハ煙草遊札受取之上志願し得るに依り控主者之宜加沙に拘
り可納自今之爲之者ハ自今可納事

一 宜加沙ハ何モ其能所限り取集病院ハ之に及出本
右之規則に背者不可爲事也

辛未十二月

京都府

七條新地之療病院費用之中ハ控令事
祇園新地控令事ハ官所ハ七年爲移り
事ハ之に控令しつて也

七條新地夜代爲今之定法を通

遊女之分

一 昼夜花致之字三年 但七年
ハ沙拾貳百之百又ハ以宜加沙之百凡丈八

藝者之分

一 昼夜花致之字八年 但七年
ハ沙拾貳百之百又ハ以宜加沙之百凡丈八

座下遊女之分

一、金沢代法古書文、山皇新書也

田力能多者、月引

百石、萬石、利分、而、金、銀、文、

十二月廿日所觸

市中大通り筋之町、新建家或改度、市面、新、取、掛、九、月、十、日、達、至、府、入、向、後、普、請、此、度、後、去、他、事、不、及、勝、自、治、取、建、了、下、不、通、り、筋、場、木、柄、シ、ラ、光、共、五、建、家、等、不、及、勝、自、治、三、階、四、階、之、建、物、之、後、上、右、筋、中、右、之、振、市、中、無、淺、也、達、了、者、也

辛未十二月

京都府

府下所、其、郡、中、街、筋、能、之、人、家、普、請、或、改、度、之、加、而、免、用、注、墨、又、公、表、日、溝、外、板、固、木、波、来、此、向、後、溝、外、分、論、溝、中、板、固、木、波、之、後、止、此、除、溝、引、退、板、固、木、波、事、右、之、振、郡、中、無、淺、也、達、了、者、也

辛未十二月

京都府

先般、予、藉、法、改、正、并、後、前、之、宗、川、人、別、帳、其、廢、除、自、今、不、及、指、出、事

辛未十月

大藏省

本願寺、東、本、願、寺、奥、寺、佛、光、寺、高、田、坊、主、之、宗、号、一、向、宗、号、有、其、認、稱、也、達、了、之、除、市、公、得、山、性、中、不、及、淺、也、達、了、者、也

辛未十一月

京都府

今般、振、津、國、後、来、之、府、縣、之、廢、更、在、之、通、府、縣、之、至、事、但、廢、府、縣、後、各、管、轄、地、亦、未、年、物、成、竹、材、等、新、置、府、縣、可、引、渡、事

振津國

島上郡 島下郡 豊島郡 能勢郡 西成郡 東成郡 住吉郡

大阪府

外當分管轄
元高槻縣管轄

丹波國 桑田郡内

根津國

八部郡 免原郡

武庫郡

兵庫縣
川邊郡 有馬郡

元兵庫縣管轄

淡路國 津名郡内

右之通 前條同文畧之

辛未十一月

太政官

丹波

桑田郡 船井郡
右者京都府管下

何麻郡
作手

任大津縣令
任大坂府参事
任京都府知事
任京都府参事

松田京都府大参事
藤村京都府参事
長谷京都府知事
榎本京都府大参事

大和國一系

奈良縣管下

右

為秋ノ農作諸玉一版ニ豐饒ナリ由能中此頃九分ノ報多ク得
名ニ由肥ハ十二分ニ豐作ナリ能希最後ハ十分ニ豐希上ニ同シ
豐後之次ノ薩日隅仁モ宜シ日隅ハ薩ニ稍勝リト云

後來所組區外之地示

皇居之除之外ノ華地内ニ初メ別紙画面并並下ノ書載之
分自今番組地區中ニ組入ル他ノ名画面外下ノ數年之官地
為領地并借地除地ナリ是近番組内ニ有ル其組其所分ニ

以下番畧

同拾番畧組

小堤屋五藏千本屋五郡山屋五和光院小

同拾番畧組

醍醐家穂重家東園家一條家等

同拾番畧組

無取有昌郎淵院家嘉陽家八條家庭家

西園寺家切柳宮清水谷家等

同拾番畧組

九條家

同拾番畧組

鷹司家三條家慈光寺家辨波家高圓家

同拾番畧組

林等重坊長谷家岩倉家等

同拾番畧組

回東西没下神泉寺等

同拾番畧組

本能寺天作寺兵田寺

同拾番畧組

三條家石波家三條家勸修寺等

同拾番畧組

家其外

同拾番畧組

中寺室本釋子伏見宮本寺竹内門御製本寺等

同拾番畧組

中井邸西尾家高辻家天神社東原家等

同拾番畧組

田邊寺坊傳家荒神其外屋五

同拾番畧組

妙満寺南倉邸華堂下聖高田坊善導寺

同拾番畧組

其外諸家別在寺

同拾番畧組

元ヤ下非人産

同拾番畧組

檀王法林寺頂妙寺法皇寺其外

同拾番畧組

本園寺

同拾番畧組

西本願寺

同拾番畧組

東本願寺口抄教公在

同拾番畧組

元天於之内聖所寺裏

同拾番畧組

青蓮院門跡持聖堂元天於之内光所教事所

同拾番畧組

建仁寺

同拾番畧組

安井七親善八坂法觀寺其外寺院

同拾番畧組

金光院成中屋若宮橋六波羅等

同拾番畧組

大佛方廣寺

同拾番畧組

妙法院宮日吉社小松寺等

同拾番畧組

妙法院宮日吉社小松寺等

同拾番畧組

妙法院宮日吉社小松寺等

今出所門
伏見
宮

同世番領ハ以 東福寺養淳院
同世番領ハ以 八坂社 知慈院

今般市中 皇居之除外 官地官邸 善族士族平社寺其外 去
町組如郡中 役系位居村如 身係向後 善族士族平社人偏籍
其外義別紙之通可取扱事

辛未十一月

京都府

別紙

善族士族平社人偏籍

戸籍民権ニ屬スル 人別能生去任所村或ハ家ノ私家
村産ノ管之丈ヨリ 町ハ中年寄大年寄村大産産ノ順次ニ達ス
一級平氏ト異ナリ 只新村ノ他組ニ除ク

但中ノ人ヨリ頭ニ成テ居ル事
族之取扱之事 右族ニ屬スル事ハ 官位ニ追還之事多ク朝廷上
觸頭官之直ニ府聴ニ達ス 但中ノ人今其材役所役トナル事

右之通去達也 下レ九 町ハ其地内之知年寄多ク他ハ其地
中ノ年寄取事可ナリ

今般市中 皇居之除外 官地官邸 善族士族平社寺其外 去
町組如郡中 役系位居村如 身係向後 善族士族平社人偏籍
其外義別紙之通可取扱事

但中ノ人ヨリ頭ニ成テ居ル事

辛未十一月

太政官

別紙之通也 作出シテ多ク後年召抱事 諸代家来ニ寄リ
更ニ氏籍ハ編入子身農商之内 本人只以不調早ニ出
觸下ニモ 農商ニ通事

辛未十一月

東京府

今般市中 皇居之除外 官地官邸 善族士族平社寺其外 去
町組如郡中 役系位居村如 身係向後 善族士族平社人偏籍
其外義別紙之通可取扱事

今般市中 皇居之除外 官地官邸 善族士族平社寺其外 去
町組如郡中 役系位居村如 身係向後 善族士族平社人偏籍
其外義別紙之通可取扱事

相模國 足柄上郡 同下郡 高座郡 大位郡

愛甲郡 陶陵郡 津久郡

伊豆國一山

神奈川縣 相模國 三浦郡 鎌倉郡
武藏國 杉樹郡 久良岐郡 板筑郡

東京府 武藏國 荏原郡 豐島郡 多摩郡 足立郡
葛飾郡内

入間縣 武藏國 横見郡 入間郡 秩父郡 男衾郡
縣廳在 大里郡 檉沢郡 加美郡 幡羅郡
比企郡 新生郡 那賀郡 児玉郡
高麗郡 多摩郡内

埼玉縣 武藏國 埼玉郡 葛飾郡内 豆土郡内
縣廳在 武藏國 埼玉郡

本更津縣 安房國 一山
上総國 一山

千葉縣 下総國 千葉郡 千葉郡 千葉郡 千葉郡 千葉郡 千葉郡
縣廳在 千葉郡 千葉郡 千葉郡 千葉郡 千葉郡 千葉郡

新治縣 常陸國 新治郡 荒波郡 河内郡 行方郡
信太郡 麻生郡 千葉郡 葛飾郡

下総國 香取郡 匝瑳郡 海上郡

茨木縣 常陸國 多賀郡 久慈郡 那賀郡 茨城郡
縣廳在 多賀郡

栃木縣 下野國 足利郡 蓮田郡 寒川郡 安蘇郡
縣廳在 足利郡

上野國 邑樂郡 新田郡 山田郡

宇都宮縣 下野國 芳賀郡 塩田郡 那須郡 河内郡
縣廳在 芳賀郡

右三通府縣並至其府廳府縣後並其管轄之地不為本年
上物成今村等又上引成事

辛未十一月

太改官

今取行波國外四里三三溪末之諸縣之廢之更之在縣之末
但廢縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末
今取廢縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末
從之廢之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

名東縣

阿波國一國
淡路國一國

香川縣

讃岐國一國

松山縣

伊豫國

宇摩郡
末村郡
溫泉郡

野万郡
越智郡
伊豫郡

新居郡
川早郡

周布郡
和氣郡

宇和島縣

伊豫國

宇和郡

喜多郡

淳光郡

久米郡

高知縣

土佐國一國

右之通計之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

今取廢縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

今取廢縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

伊豫縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

伊豫縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

伊豫縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

今取廢縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

伊豫縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

伊豫縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

伊豫縣之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

靜岡縣

駿河國一國

淡路縣

遠江國一國

額田縣

三河國一國

元來縣

尾張國智多郡外之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

元來縣

尾張國智多郡外之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

元來縣

尾張國智多郡外之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

元來縣

尾張國智多郡外之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

元來縣

尾張國智多郡外之末之官管轄之地而為末年之物成之村之新立之縣之末

下總國

武射郡內

香取郡

伊豆國 田方郡内 加茂郡内

上野國
新田郡内
邑樂郡内

下野國
安蘇郡内

武藏國
多摩郡内

我前國
丹生郡内
南隆郡内
坂井郡内

安房國 平郡内

武藏國 檜沢郡内 川邊郡内 能瀬郡内 有馬郡内

根津國
豐島郡内

上野國
新田郡内

丹波國
何鹿郡内

近不縣 淺井郡內 伊香郡內 高島郡內
上總國 望陀郡內

右之通計金以十分後前管轄、釋々地下物成、今村等是未年、

但言及別一節是

辛未十一月

今般山陽山陰兩道之内言石之精々と廢と更ハ縣ノ計年々事

但廢縣沒本管轄——常夏

鳥取縣 信田縣 松江縣 廣東縣 母里縣 津山縣

東陽縣
 鶴田縣
 長山縣
 福山縣
 新見縣
 庭津縣

副田縣 成羽縣 淺尾縣 星守縣 高梁縣 形方縣

生坂縣 倉五縣 廣鴻縣 山口縣 岩玉縣 豐浦縣

清末

今般廢縣ノ官復——前又

辛未十月

鳥取縣 因幡國一山 伯耆國一山

濱田縣 石見國二山

島根縣 出雲國二山

北條縣 美作國二山

岡山縣 備前國二山

深津縣 備中國二山

備後國 備後國

河內國 高安郡内

美作國 池田郡内

河內國 大縣郡内

美津國 八都郡内

廣島縣 安藝國二山

備後國 即調郡 世羅郡 三谿郡 三上郡 奴可郡 甲怒郡

山口縣 周防國二山 長門國二山

三次郡 速穗郡

太 改 官

辛未十一月

姫路縣 飾磨縣と改改

二牟松福島縣と改改

今般小陸通美禰彈 信濃甲斐國と改改

但摩縣 從永管轄

今般廢縣之官負進

敦賀縣 若狹國二山

越前國 今立郡 南條郡 敦賀郡

福井縣 越前國 足羽郡 高田郡 丹生郡 坂井郡 大野郡

金澤縣 加賀國二山

七尾縣 能登國二山

太 改 官

東京大学経済学図書館所蔵 旧図書館分類文書 5505535236

越中國 射水郡

新川縣 越中國 礪波郡 新川郡 婦負郡

柏耆縣 越後國 頸城郡 古志郡 美沼郡 為羽郡 三舊郡

相川縣 依波國 山

筑摩縣 飛騨國 山 信濃國 筑摩郡 伊那郡 諏訪郡 安曇郡

長野縣 信濃國 埴科郡 高井郡 水内郡 佐久郡 更科郡

山梨縣 甲斐國 山

右之通計主事 前口文

辛未十一月

太政官

今般山城國外十一國內之後來之府縣之廢之更之及之通府縣之

但廢縣之管轄 前口文

今般廢府縣 前口文

京都府 山城國 丹波國 船井郡 何鹿郡 桑田郡

奈良縣 大和國 山

堺縣 河内國 山 和泉國 山

豐後津縣 伊賀國 山 安藝郡 鈴鹿郡 安濃郡 河曲郡

三重郡 桑名郡 員光郡 朝明郡

度會縣 志摩國 山 伊勢國 氣氣郡 度會郡 飯野郡 飯高郡

一志郡

紀伊國 牟婁郡内

名古屋縣 尾張國 春鼻郡 愛知郡 葉栗郡 海東郡

名古屋縣 信濃國

海西郡 升羽郡 中嶋郡 外當分官轄

岐阜縣 美濃國 二山

越前國 南條郡内 升生郡内 大野郡内

長濱縣 近江國 神等縣 愛知郡 犬上郡 坂田郡 浅井郡

大津縣 近江國 高島郡 滋賀郡 栗田郡 野添郡

甲賀郡 蒲生郡

和歌山縣 紀伊國 伊都郡 那賀郡 名草郡 海部郡 有田郡

右之通内縣 沙至り 外 後前官轄 府縣方 地不 物成 以村 為未

但方及別一村限 前以文

太政官

外務省中 在之通 出置 事

總領事 五等官

副領事 六等官

代領事 七等官

八等官

辛未十二月

太政官

従来之制版被廢止 案爲分之非常之節多クは平常之
通にお勝りし事

壬申四月

大改定

今般少海名開松使控の古習度三井得中身改廢止
来之古令部ヲ引取ルル事言ニ而事案山ノ令引様證
券十分五部一系案沙平沙中沙之程引製造山表九十九
々發引引一海度程を除き外租税其地ノ上引ノ勿論
日用公私ノ取引ニ至近信ノ定令引取通用セシムル事證
券ノ多ハ大蔵省發行ノ證券ト引取ルル事引様使即先改定
之檢下ヲ押正引部主事東京大坂等處ニテ而之三井組
於テ新發部主事北青正引部主事引様主事引様中出者
車来ニ二分利引引様主事院訪氏一毫疑念ナリは案

壬申三月

太政官

大正十二年十一月廿一日
 大正十二年十一月廿一日
 大正十二年十一月廿一日

李商隐

京都府

却諱惠統書右睦三字自今文盡不及半

壬申三月

太政官

阮院中阮之通沙立半

大掌記 八等 推大掌記 九等 中掌記 十等
權中掌記 十一等 女掌記 十二等 推女掌記 十三等

壬申正月

太改寅

光祿市申官他官郎兼生族社寺所領加入郡
中者沒系住居之村に加入儒僧を除く外兼族以下
其所具村に編輯了す今收傍居之數も町村に
編輯すべし

祖編纂之義茲因冬十一月達面照準之有據

不報當府管內無虞未達之也

壬申二月

京都府

自今儒俚肉食妻帶蓄髮者可為勝衣矣

但法用外人民一致之爲利不苦乎

壬申四月九日

大改竄

今收海軍省移別紙通知條是方已奉旨行

海軍若普通陸路と不混然可成事

壬申四月日當

海軍若一度之後分一ノ以ラ一里ト定メ而陸軍於古所カ分
七厘ノ毛ナリ

一ノ以若曲入ニ定メ一ノ以ト定ム

但側量國海海底之淺深若干潮ノ時ヲ尋數ニ以テ
定ルモノトス

一經度若我ニ在ル東京海軍省標竿ヲ以テ東經一而
ニ輪九度以陸軍分ニナシ秒零ナ定ム

壬申四月

大政官

今般座屋名之平多未初被廢止除之通改
西次

但近々撰舉之人俾事之近者如樹ノ村役事勢

取扱旅ヲ一トス

一黄寺村と糾合一區ト一區毎に區長副區長ヲ
主村ノ一ノ長ト定ム

但一區若則小学校糾合村と云々撰舉也

一區長 若人

副區長 若人

一戶長 村ノ一ノ長ト定ム

一區長副區長ノ長ト定ム、給料表面之通事定ム

高百石并五石ノ中一ノ新貸書格淺ト出ノ村役
給及小学校其化一區中保護之入費ト定ム

但新貸書格七月止ト定ム十一月止ト定ム

朱書

市中諸所者得、稱を廢止自今別紙に通知替區を唱事
右に通知府管内に不渡換を達するなり也

壬申五月

京都府

上京

二番組 上京區 十三組 日九區 十六組 日十七區 十九組 日十九區
七番組 日 十三組 日十區 十四組 日十八區 十九組 日十九區
五番組 日 十三組 日十八區 十七組 日十九區 十九組 日十九區
五番組 日 十四組 日十九區 十八組 日二十區 十九組 日十九區
六番組 日 十五組 日十九區 十九組 日二十區 十九組 日十九區
三番組 日 十六組 日十九區 十九組 日二十區 十九組 日十九區
四番組 日 十七組 日十九區 十九組 日二十區 十九組 日十九區
十番組 日 十八組 日十九區 十九組 日二十區 十九組 日十九區

下京

七番組 下京區 十三組 日九區 十三組 日十七區 十七組 日十九區
二番組 日 十三組 日十區 十四組 日十八區 十八組 日十九區
三番組 日 十三組 日十九區 十五組 日十九區 十九組 日十九區
四番組 日 十四組 日十九區 十六組 日十九區 十九組 日十九區
五番組 日 十五組 日十九區 十八組 日十九區 十九組 日十九區
六番組 日 十六組 日十九區 十九組 日十九區 十九組 日十九區
七番組 日 十七組 日十九區 十九組 日十九區 十九組 日十九區
八番組 日 十八組 日十九區 十九組 日十九區 十九組 日十九區
中副年寄所年寄之稱を廢止左に通知改め
中副年寄區長 副年寄副區長 所年寄戸長
右に通知管内に不渡換を達するなり也

壬申五月

京都府

大羊茅之稱を改メ総區長と可稱事

右之類者府管内に無淺き達するもの也

五月十二日

京都府

從來通稱右類を様用い事、事自今一名々々キ
事

壬申五月十日

大改官

向後達一又者尋常之義に味ひ而其所改材役
と不歴一々々々人々之狀を多々として方々ニ付
此方々々々々事

右之類者府管内に無淺き達するもの也

壬申五月

京都府

来凡三三東京

所祭鞆所軍艦三右坂美中玉西國船

所巡幸法 作中事

但所通船其他船其代巨細之義未達する事

壬申五月七日

大改官

右之通法 作中除道船其分派方達するもの也
劣化 所通船之義に難中と有道派家四つ木
洒杯之義をいふは事々々々方々内に無淺き達する
もの也

壬申五月十日

京都府

今般 所巡幸船其地 所駐鞆

春明天皇山陵所参拜之節 所行外拜見之為

胎生性未人不及先止諸民業實平定通且
却道能新院未不及有以達一考之除其有相人
得不作法無以故之

一蕭之達幸通送家迎等不降無以故之洒
除之及事

一火要公別可不入急事
右之振管月之無民未達了り也

壬申五月 京都府

中至要事少巡幸少送為左通上作也事
壬申五月廿七日 大政官

大手門より御座候所より以りて少少

品川三郎の軍機の後

鳥羽 神宮御参拜 鳥羽 大馬 大坂

伏見 京都 孝明天皇山陵御参拜

伏見 大坂 神戶 豊後 姫島

馬関 長崎 熊本 麻兒島 伊豆 熱海

品川 是より少少強路還幸

右之通事 作也と執事と云也 御座泊

孝明天皇山陵御参拜社為年云云 入京以送前

日限より御座出可未達り付候方公得者内也

壬申五月 京都府

告諭

世運時之隆治革アリ教亦沿革セサル得久宇内万国之形勢
然リ熟シテ古多考ルニ天手中大ニ佛敎ヲ興シテ各^部分^之寺
ヲ創建シ延曆中ニ天台真言ノ二宗ヲ開テ頭^部密ノ教ヲ起シ
寺永建久以^テ後声明者流煩^々禪者流競^々起テ世教ヲ得
益シ人心ヲ固結ス一盛一衰^之矩テ今^ニ至^ル然^レニ時^ニ仍^テ本^ノ換
リ俗^ニ後^ニヒテ榮生ス今^ニヤ紹^元承^和頽^レテ碩^德甚^ニ乏^シ適
クマ春^宿宿^出ト雖^モ株^ヲ守^リ柱^ニ膠^シテ時運之變通^ヲ
有^レ破^{スル}能^{ハス}慨^歎スヘキ^ノ甚^シキ也方^今新^ニ敎^部省^ヲ
置^テ布^教之^法盛^ニテ^ハ北^氏ヲ安^撫セ^ニト欲^ス是^ニ於^テ先
東京府^ニ大^敎院^ヲ設^クシ^テ學^業奮^勵ノ策^ヲ逞^シ各^流
ノ儒^達學^ヲ憤^然ト^シテ^ハ敎^法ヲ振^起セ^ハ日^ナラ^スシ^テ天^平
兆^氏敬^テ神^愛國^天理^人道^皇上^奉戴^朝古^遵奉^本

三^章大^義ヲ體^認シ^テ其^盛意^ヲ善^ク北^氏ニ貫^徹セ^シ連^シ
帰^化ヲ補^フ功^ヲ奉^{スル}ニ至^{ラン}既^ニ異^敎駁^々キト^モ將^ニ入^{ント}
ス^ルノ勢^{アリ}是^ニ我^ノ敎^ヲ主^張シ^テ民^心ヲ維^持シ^テ國^恩ヲ報^ス
ル^ノ秋^堂之^ヲ望^視ス^ヘケ^ニヤ各^國各^縣ニ於^テ亦^ハ小^敎院^ヲ
設^テ其^式ニ倣^ヒ敎^主各^國進^行シ^テ敎^等ヲ勉^勵セ^シメ^其
學^則ノ如^キハ日^明國^備ノ弊^ヲ陰^ニ固^陋頑^僻ノ見^ツ去^テ
内^外史^論ナ^ク西^洋各^國ノ史^籍ニ至^ル上^ハ國^家ヲ羽^翬シ
下^ハ民^心ヲ維^持シ^テ皇^威愈^隆昌^{ナラ}ニ事^ヲ各^派本^來
未^同心^勸力^旃ヲ勸^メ旃^ヲ勸^メヨ

敎部省敎導職規則式

第一 敬神愛國古傳スヘキ事
第二 天理人道ヲ明カニスヘキ事

第三皇上奉戴之朝高遵奉也之本事

階級

大教正

權大教正

已上勅任

中教正

權中教正

女教正

權女教正

已上奏任

大講義

權大講義

中講義

權中講義

女講義

權女講義

訓導

權訓導

已上判任

以上十四等

東京府報知ノ書換

四月廿日内舍人課上奏改難掌事此主

拜令

元康院湯士族

伊藤祐平

元中祿樹下茂國

元權大源

吉田良崇

外難掌三十六名署之

皇太后宸行啓法奉内舍人難掌、未成以分

四人残士人止廢

皇太后宸附、難掌四月九日拜令

元内膳正

中川元續

松室重榮

吉見正重

岡本清庵

藤沢實

仕人等下等未以改法無之

皇后宸供奉之分不殘、以改法中上歸凡

元本九條西九吹上等、山皇居とと定西九下、於太政官、坊諸省、以取五子、成以改法、上條一帳市街、分刻測量、以作中事

同十六日午前五字馬関所發長崎近百七十里
 同十七日午前五字二十分長崎所發同十八日十九日同所泊
 同十九日午前五字長崎所發熊本近七十九里
 同十九日午前五字三十分熊本所發同十九日二十日同所泊
 同廿四日午前五字熊本所發鹿兒島所發同廿六日廿七日廿八日
 同所泊 都合日数三十六日
 還幸之節ハ伊豆熱海品川所順路ニ事
 右海路一里ハ陸路十六丁九分七厘五毛ニ事

今般楠社鎮座、并自今漆川神社ヲ改稱ス事
 但社格之義ハ別格官幣社ニ列ス事
 壬申九月九日 太 改 官

環海通中記

横濱	香港へ一千六里	太平洋汽船	六月六日
香港	カルクツタへ三十三里	英國汽船	六月四日
孟買	孟買へ一千二里	カルクツタ北印度汽船	六月四日
カイロ	カイロへ三千六百里	英國汽船	六月二日
アヒキヤト	アヒキヤトへ百 里	シエス入堀	六月五日
マルセル	マルセルへ一千八百里	英國汽船	六月六日
カヒイス	カヒイスへ六百十五里	巴里行汽船	六月三十三日
リウルフル	リウルフルへ三百二十里	倫敦行汽船	六月三十三日
紐育	紐育へ九 千里	九日迄又ハ米國東岸諸港へ	
米國東岸諸港	リウカゴへ九百九十里	火輪車	六月三十三日
サント	サントへ二千四百里	ボルサント迄汽船	六月三十三日
横濱	横濱へ 四千七百里	太平洋汽船	六月三十三日
總計路程	二万三千七百六十五里ナリ	七十七日十字	一周スヘシ

海外新報

セルミン一等天文博士ノ考ルニ日本今年七月初旬西洋八月中旬ニ
 彗星中外ニ出ルナリト大性ニシテ地ニハ時地中赫烈トシテ
 拂フガ如ク更ニ一変セシトナリ然ルニイギリス一等天文博士ノ考ニハ

如行ニモ慧星中外ニ出ルト雖モ火性ニアラス炎ナレハ地ニトリテ
 流没スベシト又各國ノ天文博士モ慧星ハ誓言ラ出ベシ地球一変
 スルノ如キハ非ナラントノ考ナルヨシ
 右電報ニテ報知セル者或ル
 英人ノ並話シ



西洋十月合衆國議事院ノ集議ニ大統領グラント日本壬申年三
 月四日還職代リ目ニ當リ代任ノ議論アリシニグラント再任ヲ望ム
 モノ多カリシヨシ

東京日々新聞三月廿六日

京橋ヨリ新橋迄所幅十五間ニ成ルニ付今九二日宮食方出張
 往還ハ東西七ヨリ三人道敷ト認リテ既ツ建サセラルシナリ

元神祇省御座天神地祇兩座 宮中ニ御座御作出
 々事 但モ今賢所御拝祈ルハ法座之々

今般神祇省御座ニ付奉事祀典自今式部省ニ移テ執行
 々事

壬申三月

太政官

今般赤坂ニ離宮ヲ立ル々事

太政官

西洋各國ノ人痛意之談

海外各國天文博士ノ局ヨリ當年日本壬申初秋頭星地球一変
 ノ象證アラコトヲ示ハ是未だ前途ノ究理ナルモ然ルニ此天文
 星學後從前日本人ハ其通理ヲ知ルノミニシテ是力究理ハ
 関カリシナク唯地球一変ノ象ナリト云フヲモ其地球一変ハ何程

ノ一変カ知ル可キ引自ラ知ラサルハ実ニを千万ナリ也如何ト云ニ
債世界ノ形勢ヲ深ク考察スルニ西洋紀元前世界ハ水性ノ
類星ヲ見テアワクニ一家ノ族生木ヲ以テ筏ヲ作りウツロ舟ニテ
此難害ヲサケタルハ今ク其地球一変ノ象ニ類スルト聞ヘタリ此
前途未全ニ此難ヲ知ルト云ニ其時ハ其世界ノ人々是ヲ察シ
ノ如クニ云ニナルベシ下ニ其前世ノ水ノ爲ニ滅却シテ仕舞一家
一族ノミ本上ニ浮ミテ人今ヲ存スル程ノ初ヲ成就シタルニ依テ
洋別ノ國トフチヲ專マ其國後世界ノ祖ト成タル故其紀元
ヨリ千八百七十年則今ノ如ク富強ヲ操ノ開化文明國ノ大先
生タルヲ得ル又シモ其後世界ニアワクノ外ニ人アルヲ聞カス
故ニ前世界ノヲ知ルヘキ誤ナシ其誤ヲ以テ水性ノ類星地
球一變ノ象ヲ天文ニテ究理シタル効力室大ナルヲマツハ如
斯モノナルヘシ然ルニ今般ノ天文撰成ナルヤ火性ニシテ然カモ
炎列ノ星ニアリテ測量地球ニ関接スルノ表ナルニ何リ地球
一變ノ象ナラサルヲ得サルナリ素ヨリ此慧星ノ類ニテ地球
ニ関接スルノ誤ヲ深ク考察スルニ此慧星ノ性タル堅烈ハ火性
ニテ此地球ヨリ見ル時ハ彗ニ女星ニ見ルハ人前ノ目ノ量ニカハル
則ニ極リアルカ故ナリ是ヲ譬テ云ハ此地球カ大サ一尺ノ球
ナラハ慧星ノ球具大サハ尺球ニ過超セリ故ニ地球一度是
ニ関接スルヲアラハ何トシテ保テ存スルヲ得キ誤ナモノデハナ
カルベシ先年既ニ此星アリテ前途ノ究理洋客天文通理
ノ情士深ク意ヲ痛ク具期ノ来ルヲ地球ノ最後ノ覺悟シタリ
ニタリシナリ其砌イカニモ慧星既ニ此地球ニ関接セシトシタリ
タルナリ今般ノ先考ト先年ノ撰術ト即今是ヲ考究シテ
試ル時ハ今般ノ慧星必ス此地球ニ親シク関接セシト考ユタ
リ故ニ洋客ノ痛慮ニ爰ニ於テ不一夜金夜是ヲ苦心スルト
至モ是ハ又愚知ノ具ニシキモノナリ然リト至モ是ヲ痛慮セザル
ヲ得ス最モ今般ノ撰出火性タルハ是ハ殘ヲモウツロ舟テモ
是ヲ通レサケルト云フヲナラヌ誤ナレハ吾モ人モ此慧星地球ニ
関接シタルヲナレハ一瞬間ニ此地球全世界ノ滅却スルヲナレハ
是ヲナント慮シ様ニ毎カルヘシ左スレハ然リトシテ愚知ヲ生スル外
念無ルヘシ爰ヲ以テ思ヘハ日本人ハ氣樂ノヲナルヘシ如何ト云

フ此慧星ト云モハワイイッモノ帯キ星ナリト思ヒトリテ天文学家ト
云フトモ是ヲ究理ハ却テ贅ミ似タルモノ知ラス方カ徳ヲ得ルノ
論ミシテ却テ是カ長寿ヲ保ツノ道理ナレハ世ニ究理奈クノ
人モ頑愚ノ野史モ一瞬ミシテ滅却セハ同則ノ人生ノ負ナルハ
係ミカノコソクノ如キ是カ爲ノミ生キ残ル人トノ違ヒニ存
顯然タリ叔然リト雖モ今報ノ大烈性ノ慧星其例ハ比スル
能ハサルヤ豫ノ是ヲ痛慮スルノ外他念更ニアルヘカラス就中天
文ノ撰効支那ニ授メルヲ如何セン次テ米堅利及ヒ英字嘗
ハ又其論ヲ別ニスルヲ又甚スキナル可シト云天方道理ノ情
士及ヒ世界ノ学者能ク愛ニ注意セハ各比日思ヒ知ナラサルナキ
属ス究理外ノ理論如何哉

壬申初夏傳寫

諭言一則

此程防閑之邪說ニ或ハ庚申山之告ナリ氏上沢赤城山ノ妄夢ナリ氏
原由一定セスト余當七月十九日當リテ世界泥海トナリ更ニ一夢ナ
セリ何故カハ妄說ニ迷フヤ其語ナキ一言ヲ待サル所ナリ又我新
聞三十一号ニ西洋八月月中旬中外ハ慧星ノ現ル由ヲ英人ノ直話ニ
因テ記セシカ既ニ倫敦刊行ノ新聞帝モ載スル由是トテモ
「セルヤ」ノ天文博士一人此星地ノ觸ナハ赫然トシテ拂フカ如クナリ
ト云ト英國及ヒ各國ノ博士ハ慧星出スベシ其星地ニ下リテ異
変アラントハ考ヘズ恐ラクハ非ナルベシノ妄ナリ大古ヨリ此星ノ出
ルヲ見テハ禍災ノ前兆ナト唱ヘ来レ氏決シテサル物ニアラズ慧
星ハ種類數百アリテ四年目毎ニ出ルモアリ又七十六年目或ハ
二十年徑テ出ルモアリ既ニ彼千八百二十年我文化八年ニ現レ
タル物ハ未聞ノ大ナルモノテ尾ノ長サ九千百里アリト其比
モ去年ノ前兆ナドハ惑亂セシ由ナリシカ其年丑穀未常有ノ
豊熟ヲ撫メタリ況ヤ慧星ハ濛氣ナク太陽ニ近ツク時ハ
其濛氣ミ因テ散解シ始テ秋ヲ現ス是豈驚愕狀ヲナスル以
ナリ何ソ天變地異人事ノ與衷ミ關スル理アラニヤ當年中外ニ
出ツベシト云星ハ文化八年ニ現レシ星ノ如ク尾ノ丈長カラントノ
考ミテ地ニ觸ルノ說アリシモノカ其尾ハ湯氣ノ如ク輕キモノナ

レハ万一此ニ觸ル莫アリ氏恐ル、ハ足ラサル物ノ中或天文家ノ説ナリサレハ慧星ノ現ル、モ厚来是リアル莫テ恐ルヘキ物ニハアラサルナリ

東京日々新聞四月十二日

江湖叢談

兗後峰起、舟新河縣ヨリ御居之署

當縣下土尉峰起之戎、舟已、中及後、益動搖、昨七日朔三陰所、此集、兗黨二、引合、中ノ川東縁、一、西縁、下リ、高港、襲撃、報村々、於テハ只、恐怖、余、兗賊、莫、鄭重、相迎、焚出、ハ勿論、酒食、十分、相先、愚民、其、率、隨、從、致、其、氣、勢、益、盛、相、成、舟、當、縣、正、權、奉、事、垢、官、負、十、教、名、出、張、及、説、論、九、更、不、取、合、兗、後、ノ、内、頭、主、者、ハ、小、旗、ミ、竿、ヘ、刀、必、シ、ハ、モ、モ、其、勢、傲、然、タル、狀、カ、吉、江、村、に、於、右、先、ミ、遮、リ、及、説、論、九、三、四、十、人、者、同、大、声、ヲ、揚、ケ、如、所、之、説、施、多、更、不、聞、入、ミ、ナ、ラ、ス、平、以、來、舟、南、於、棧、奉、事、ノ、葉、馬、ヲ、擲、亂、暴、刺、ハ、臨、河、官、負、ノ、内、十、五、等、出、仕、大、通、盈、尹、賊、中、に、取、回、仁、者、之、不、業、ミ、裁、教、害、及、以、得、去、象、寡、勢、不、得、止、一、先、引、上、ミ、舟、弥、增、盛、押、寄、也、市、ノ、人、民、狼、狽、不、意、突、然、ノ、次、月、此、上、當、港、ハ、押、入、リ、外、國、人、居、留、モ、有、之、舟、ノ、配、ノ、義、ミ、舟、分、當、ト、世、ヲ、讀、判、ク、尽、シ、以、出、兵、之、外、無、ミ、評、文、ノ、上、尚、又、谷、津、中、事、伊、藤、將、大、属、先、行、以、後、再、應、説、得、ノ、後、ミ、舟、湯、村、近、所、出、移、取、法、ノ、段、ハ、繼、之、兗、賊、ノ、内、ハ、小、旗、ヲ、以、指、揮、致、シ、多、人、教、條、竹、鏢、ヲ、揮、シ、右、人、荒、草、馬、ヲ、擲、シ、四、面、ト、突、ミ、終、谷、津、中、事、面、部、若、負、傷、ミ、舟、並、様、兵、隊、ト、注、進、シ、斯、近、暴、拳、及、上、六、無、如、協、合、舟、内、小、隊、様、出、シ、奈、炮、主、威、兗、賊、共、モ、然、恐、怖、散、乱、波、シ、舟、去、教、十、人、之、強、主、賊、射、モ、未、キ、分、仍、大、野、村、又、白、根、村、近、近、討、全、ハ、同、村、密、傳、ミ、後、リ、舟、右、村、々、人、民、鎮、持、爲、ノ、正、權、奉、事、外、官、負、出、張、波、シ、先、々、一、時、ハ、小、旗、之、安、ニ、至、リ、以、後、高、又、川、陸、ハ、々、ヨ、リ、モ、兗、賊、裝、束、ノ、風、説、者、ラ、舟、又、警、備、ミ、尽、シ、舟、此、辰、不、取、放、以、居、ヤ、ト、云、ク

進リ本文又ふ湯村ヲ祭定ニ帝賊ニ隊長ト唱ル者短鎧
ヲ以テ山本女尉ニ湯負セトリ舟益ク兵隊進撃役ト奪取シ
旗ヲ之通リ之儀

天照皇 徳川家恢復
報敵奸賊征伐

且賊徒ノ内主謀ノ者又ハ探索中同謀ノ者兩人三條所ニ於
テ召捕弘洞中候尚委細事臨ハ追テ却居可申上ニ之
因云此一撥ノ魁首ト人者ハ松平兵庫上カ呼ナス者ノ中
陸軍省ヘノ来書中見ヘシカ思ハクハ賊愚民ヲ煽動セ
爲メ明リ稱号固名ヲ名乗シ追テ白痴ト其余ハ舊令ノ
集リ勢下謂喘喘力事微ニ當リ蚊子ノ蚊牛ノ咬ル類不
日平穩ニ至ンヘヤリ

公卿

主上近日西園御願幸ニ付供奉之官負テ之通

徳大寺宮内卿

吉井宮内少輔

兎玉宮内女丞

加藤弘之

池田宮内大録

松井宮内大録

河瀬侍從長

醍醐侍從書長

高島侍從書長

堤侍從書長

堤川侍從

伏屋侍從

西田侍從

東園侍從

北條侍從

米田侍從

戸岡侍從

有地侍從

高城侍從

毛利侍從

大田侍從

澤長丸

堤重丸

岩依大侍醫

竹内權大侍医

重見大監

山川幸喜

岩井克俊

元藤清馨

目賀田大駟者

宮下中駟者

松波雅幸可成

樹下雅幸長

松尾雅幸相克

三好内膳女令史

榎井内膳正

千賀内膳權大史

松本茂路

森力

金井往近

井関調度權中令史

田中膳部朝久

村上膳部元保

若夫權女外史

西郷参議

日下部女内史

橋本式部助

式部察

大藏省
熊谷大藏少丞

陸軍

西々陸軍少將 小縣陸軍大輔

海軍

河村海軍大輔 高屋海軍大丞

府下諸宗說教場

天台宗

淺々 淺草寺

臨濟宗

芝切通 金地院

古義真言宗

芝本根 長壽寺

禪雲寺

牛込 保善院

新義真言宗

三田寺町 宝生寺

曹洞宗

高々 泉岳寺

普門院

千住宿 慈眼寺

浅々 永見寺

本領寺

澤土宗

西久保 天徳寺

本々 喜福寺

築地 本領寺

山谷 九品寺

芝山内 宝珠寺

真宗 本領寺

下谷 唯念寺

駒込 蓮光寺

本々 羅漢寺

下谷 西徳寺

時宗 時輪寺

日蓮宗

止覚寺

時宗

時輪寺

九山 本妙寺

止覚寺 福寺

時宗

時輪寺

三月下旬

従来僧侶僧官等

宣旨ヲ以テ諸寺院ヨリ差許置候

分自今從テ被廢止旨御布令アリタリ

今般御親兵被廢 近衛局被置片之通改称被作出ナキ

近衛一審大隊

従前一審大隊

近衛二審大隊

従前一審大隊

同 三審大隊

同 三審大隊

同 四審大隊

同 五審大隊

同 五審大隊

同 七審大隊

同 六審大隊

同 八九大隊

同 騎兵隊番新從前之通

山縣有明

西郷信造

任陸軍中將兼陸軍大輔近衛都督

任陸軍少將兼陸軍大輔

任陸軍中將兼陸軍大輔近衛都督

任陸軍少將兼陸軍大輔

任陸軍少將兼陸軍大輔

告示

海陸四達天成ノ勢ヲ占ムルモノ之ヲ天下ニ求ムルニ忍ラクハ大坂ノ右
 出ルモノナシ然ルニ今日日新ノ景況ヤ東京ニ比スレハ三五年前ニ居
 モノハ全ク其天成ノ頼テ人事ヲ尽サレハ其利回ホテ盛ナル天下
 諸候ノ多キ事ハ此地ニ出テ公務ノ責ヲ作キ其銀主タルモノ自ラ
 尊大ノ凡習ニ慣レ居ナカラズ附ノ利足ト持持米ノ給占ニ安レ
 只彼彼ヨリ来ツ待テ遂ニ我ヨリ進ニテ取ノ意ナシ東京ハ之ト又シ
 来ルヲ定テ其好ム外ヲ察シ手腰百出ラ賤シクシテ進テ取ノ意
 アリ故ニ賤々開化ノ原ニ在ルニ由ルトモ人々進取ノ力モ亦夥カラス
 今ヤ大坂從前頼ム外ノ諸候ハ既ニ廢セラレ天成ノ海口ハ土砂ノ
 爲ニ塞ク世上海運ノ便ハ日ヲ進テ開ケ是迄容易ニ人ノ經
 過スヘカラサル紀灘遠洋モ平地ノ如ク改米ノ運キモ以隣トナル
 ノ人テ日ノ至リ於回習ヲ固習スルハ年ヲ進ニテ必キ守リ秋收ノリ
 テ案山子獨リ立モノ、加シ苟モ此理ヲ明シ早ク前途ノ目的ヲ
 定メ進取スルノ意ヲ決セハ東京ニ凌駕スル斯年ヲ待タサル必リ
 カレハ今日ノ急ナル事一人心ヲ振リ作シ大、海港ノ便利ヲ與ム
 今更下ノ人民凡五万余カトス其心ヲ一ニシカシ海港ニ至リ早
 速哉前敷賀ノ鉄車此地ニ達スルヲ待テ物品ヲ市上ニ小積シ
 巨艦ヲ海ニ雲集シ果シテ海運輸ノ權ヲ握ラカラミテ掌
 握セハ今日ノ廣習ハ勞モスシテ開化ノ域トナル試ニ十年前ノ神
 戶横濱ヲ顧ヨ一小村落ノ農民漢又僅ニ生彦ヲ営ムノ地ニ
 而今日ノ勢ヲ致スモノハ外ナシ内外運輸ノ權ヲ有スルニアリ
 サレハ今日ノ變遷ヲ察シ衆心奮發衆力ヲ合シ金アルモノハ
 金ヲ出シ力アル者ハ力ヲ出シ天ユヲ奪スノ大業ヲ興シ祖先代々
 住ミ慣レシ住ミ江ノ子々孫々榮幸福ヲ受ケ永ク開化ノ民
 タラハ豈快カラスマヤ又榮シカラスマヤ

明治五年壬申四月

大坂府

告報

朝廷新ニ教部省ヲ置判令三章ヲ立テ普テ諸
 民ニ教諭セシム三章トハ一敬神愛國ニ天理人道ニ
 皇上奉戴朝旨遵守ナリ伏テ朝旨ヲ惟ニ内ニ教諭ヲ布

皇威ヲ海内ニ震耀セシメトナリ謹テ吾門ノ諸大徳ニ自ス諸各
自皇旨ヲ躬シ仏祖ノ密範ヲ則リ旧業ヲ除キ大法ノ傾頼ヲ
杖起スベシ頃日事常ニ齋戒肉等ノ御布告有ト云モ
朝旨ハ固リ議スヘギラス其戒ハ仏ノ制シ玉ヘル也王制寛
柔ナリト云テ之ヲ犯サハ何ソ在俗ニ異ナラニ彼此同仏子ナリ
佛子ニシテ仏戒ヲ犯サハ仏子ト云ヘカラス皆此ニ邪魔ノ種類ナリ
戒品多ク云ヘ共之ヲ要スルニ三聚淨戒ヲ不出所誦攝律儀
律攝善法戒饒益有情戒ナリ是諸仏ノ本系我等ノ
大師ナリ須臾モ失スヘカラス僅シ犯ス事勿シ吾徒自ラ戒ヲ
犯サハ爭カ諸氏ヲ教化スル事ヲ濇ニヤ諸各々戒体清淨ニ
シテ外侮ヲ受サラニ事ヲ要セヨ法運茲ニ極矣無忘シテ告至
囑

壬申五月

鞆下門訖各寺

妙心寺

神社系諸之事自今死葬ノ類リハ若ク雖共世也日ラ已
可未憚事

但服忌之者ハ後希之通ニ云ム得事

壬申五月

太政官

太宰府社之義自今太宰府神社ヲ改メ事

壬申六月

太政官

伊勢神社之義自今伊勢神社自今祭典之節ニテ共儒尼
至諸不若事

壬申六月十二日

太政官

儒尼服忌之義ハ今迄テ制衣度モ無ク然自今人民
一般之服忌ヲ受テ受

壬申六月十二日

太政官

主上御巡行五月晦日、美曾西京禁裏御所へ入御、西洋服御幸馬、翌朝日桂宮へ行幸、二日山後御参拜、三日北野、二條城中学校へ入御、四日曉御出馬、御道筋末岡院

御直觸灰之通

詔諭寫

方今宇内列國開化ノ時ニ際シ我國舊制ヲ更革シテ列國ト並馳セシト欲スル固ヨリ國民一致勤勉ノ力ヲ尽ミ非サレハ何ヲ以テ之致スル得ニヤ特ニ華族ハ國民中貴望ノ地位ニ立テ衆庶ノ属目スル所ナレハ一層勤勉ノ力ヲ致シ率先之ヲ報拜セザル可ラス其責重ク亦重シ是朕力ヲ等ニ期望スル所ナリ又勤勉ノ力ヲ致シ智ヲ開キ才ヲ研ヨリ外ナルハナシ智ヲ開キ才ヲ研クハ宇内開化ノ政勢ニ着眼シ爾來ノ所爲ニ在リ實地ノ學ヲ講シ有用ノ業ヲ修ムルヨリ要ナルハナシ人々此ニ注意シ誠能勤勉ノ力ヲ致サハ開化ノ域ニ進ミ汝も能斯意ヲ體シ勤勉以テ朕カ期望スル所ニ副ヘヨ

明治廿年壬午六月

別紙ニ傳達シ入候事、迴覽速ニ返給ル也
壬午六月一日 重胤 庭田殿

近來自華取行リ者モ多ク或モ事ヲ知向後不致成ル事
華族ハ神友傍侶之内ハ可矣、
壬午六月九日 太政官

後來神宮華族ノ關係不致成ル自今氏子等モ神華
奈未報シ而若喪之ヲ助テ諸事ヲ取扱ル事
壬午六月九日 太政官

新紙幣之内拾圓五圓武圓之三種製造、未定、
壬午六月九日、
御振意を體認、
壬午七月、
太政官

流來之流幣七月十五日、
壬午七月、
太政官

精天定其祭杯連事熟考其穀と米て佛供之腐
敗一易之飲食と作人施一或去送火と号して費用
之大と流一或去川施餘鬼六高念仏教念仏と要需
事共と執以六通之送と免之連堂塔一宿を明一
又者十日之功徳を成ると之を去に牧里と去を運ぶ事
免患く無能之謬説附合之妄誕に之を去に先陰と費
一者益天物と暴殄一且進て文明進歩ある以重
惑とし生一と事一身自今一切令停止と事右之通管内
表淺き達るもの也

壬申七月八日

京都府

地不賣買規則第十三則、從來特化し進る地券法方之義を達
る掲載為二月及布告並此是進不特之者に最前規則に
準じ地券法に代價之義出田畑之位分、不狗方今適宜に
代價地券面に出載せられ今設大蔵省より達し之條田畑
山林原野等從來不特之者、別紙雜取、徴収現今に代價

と記し来九月十音限を満了し了出さる

但重士族華社等及農籍に属する平民之田畑山林
屋敷も従前代價に付不特從來此向度年之に若否に
不特之者、有達者除却し此地不特之材及人押付
り文了出さる

右之報後内下意處事達之者也

京都府

壬申七月

雜取

地券中波頭

其国に都府村ノ内

字行

一畑何段何畝何歩

此等何石何斗何升何合

以地代令行給付也

右地不從來所持付者

年号文十月

地券中波頭
其国に都府村
可

GANSHODO SHOTEN
KANDA TOKYO
田舎 京 田
店書堂松巖

489

5413
東京大学
経済学
図書所蔵

東京大学経済学部図書館



5505535236